

平成26年度 上越市算数部 活動報告

部長 檜野 博文

- 1 研究主題 算数・数学の学力を高める授業の在り方
～授業の中で算数・数学の学力をいかに向上させるか、
日々の実践を通して明らかにする～

2 研究の概要

「教え、考えさせる授業」「習得・活用・探究」「言語活動の充実」など、学習指導要領の趣旨を実現することは、自校の課題を整理し、育てたい児童生徒像を具体的にとらえ、実効性のある対策による授業改善と日々の授業への活用を進めることである。授業が肝心要である。自校の実態を的確に分析し、学習内容の確実な習得のために効果的な対策を立てて共通実践を進める。また、「見通し・振り返りのある学習活動」「学ぶ楽しさ、分かる喜びが実感できる授業」など、全校体制で授業の質と学習意欲を高める。目指す姿と方策を共有し、日々授業改善を行い、算数・数学の学力向上に結び付ける。

3 研究の実際

平成26年11月20日(木)、上越市立宝田小学校を会場に行われた新潟県小学校教育研究会平成25・26年度学習指導改善調査研究事業授業公開・実践報告会を、当算数部員が一堂に会して研修する場とした。その概要は次のとおりである。

○研究主題 「算数を愉しむ子ども」～あたたかくかかわり合う学び方の育成～

○全体指導 上越教育大学教職大学院 教授 松沢 要一 様

○公開授業と分科会

学年・学級、単元名、授業者	分科会協議題
第2学年「かけ算(4)」 山田 婦貴子 教諭	課題は、既習事項を活用し、多様な考え方を導き出すために適切であったか
第4学年「直方体と立方体」 桂 郁子 教諭	タカラトークは、多様な気付きの共有に有効であったか
第6学年「『比』を攻略!～『比』の攻略本を作ろう～」 山岸 英昭 教諭	連比は、比の特徴や関係性のおもしろさなど、比の見方や考え方を広げるのに有効だったか
特別支援学級 3年「たし算とひき算」 4年「式と計算」 吉岡 真一郎 教諭	意欲的に取り組むための場面設定、関連させた教材教具の工夫は有効だったか

4 成果と課題

宝田小学校研究会に学ぶ授業改善の方策の1つは、思考力を発揮させる学習過程の工夫にある。導入→展開→まとめで発揮させたい力と大切にしたいポイントを押さえ、思考力を発揮させる学習過程を「つかむ→タカラトーク→まとめ」として学習指導案に位置付けている。その2は、新しい授業研究スタイルの開発である。学級担任全員が学年部で授業を参観し合う授業改善チャレンジウィークと学級だよりによる保護者への紹介、指導案(略案)と授業改善のための他者評価が一体となった授業改善チャレンジシートである。

学習課題とその提示の仕方の工夫、自力解決後に自己の考えを説明する、友達の考えを聞く、友達の考えを自分の言葉で再表現するなど、ペア・グループ・全体で課題を解決する児童の姿に、学ぶところが多く、分科会では活発な協議がなされた。